

最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 12601002

性能分野	環境・省エネルギー性能		
大分類	新技術		
中分類	分散エネルギー		
技術の名称	コージェネレーション設備の設置（戸別住戸設置）		
改修技術の概要	<p>【改修工事の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気は運びやすい特性があるため、発電所から家庭まで運ぶことができるが、熱はためやすいが運びにくいいため火力発電所で発生した熱を家庭では利用できない。電気をつくり、そこで生まれた熱も利用する。このように1つのエネルギーから、電気や熱など2つ以上のエネルギーを同時に取り出すことがとできるシステムをコージェネレーションシステムという。 ・高効率化によるエネルギー消費量の低減、光熱費の低減だけでなく非常時に専有部への電力供給が可能となる。 <p>【各設備の高効率化の特徴】 コージェネレーション（ガス発電・給湯システム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市ガスやLPガスを燃料として小型のガスエンジンで発電し、その排熱を利用して給湯や暖房を行う。 ・1KWの発電をする際に発生する排熱は2.5KW。 ・学習機能により電気・給湯・暖房の使用が多い時間帯を中心に運転する。 ・貯湯タンクが災害時は非常用水として利用できる。 ・瞬間式補助熱源機が内蔵されているので、タンク内のお湯が不足しても湯切れの心配がない ・エンジン式のため、定期点検が必要となる。 ・メンテナンスは専門業者と保守契約を結ぶことが一般的。（各エネルギー事業者がメンテナンス期間を定めている。購入代金に保障期間中のフルメンテナンス費が含まれている場合もあるので確認する。） 		
	<p style="text-align: right;">< 出典：東京ガス(株) ></p>		
共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性がある
		S55年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性がある
		S56～H2年供給(総プロB)	使われる可能性がある
		H3～12年供給(総プロC)	使われる可能性がある
		H13年以降供給(総プロD)	使われる可能性がある
(補足) 設置スペースが確保できる場合(積載荷重にも留意)			

常にセットで利用される技術		
技術が適用される建物の部位		共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部) 専有部分 (設備・配管 その他専用部分) [設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 (発電設備、ガス消費機器) 注意すべき主な法令 (消防法、電気事業法、ガス事業法)]
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること (仮設以外) () まとまった土地が利用できること (仮設以外) () 住宅の数が多く密度が高い () 特定の設備があること ()
足場の設置が必要		必要 不要 ()
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 (発電ユニット、貯湯ユニットの設置場所、燃料配管、給水・給湯管の経路によりプラン改修となる場合)
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 ()
	工事後に続く影響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限 (ベランダまたは収納等に機器を設置する場合) 日照・採光等への影響 ()
当該技術が利用される工事		計画修繕工事 (劣化の補修 性能の向上) 耐震改修工事 (耐震性の向上 他の性能の向上)
技術的境界		・貯湯タンクの設置スペース、床強度の確保が困難な場合、適用できない場合がある。
参考資料	技術情報	・
	価格情報	